

### 第62回 オールスター競輪 GI 出場選手インタビュー



今年21勝は、S級S班のなかではトップ。それでも優勝になかなか結びつかない前半にもどかしさを感じていた。6月末の久留米記念で今年初優勝を飾ると、新車を投入した直前の西武園記念で通算20回目の記念V。ようやく軌道に乗ってきた。

「前半は（グランプリ出場が）まったく見えなかったのが、中盤から結果が出てきてイケそうかかっていうのがある。（優勝しての）賞金がどうこうじゃなくて、自分の動きがそついう（納得できる）感じになってきた」

実戦に投入する前から大きな期待を寄せていた新車も、シリーズで日を追うごとに体との一体感が出てきた。

「大幅に変えた（新車が）日に日にいいんで、決勝が一番良かった。自転車とマッチしてきて進み方もいいし、これでスピードに対応できるかなと。あとは合宿にいつ、上積みができれば」

手応えつかみ、G1で結果を 平原康多 埼玉県 87期



来年に東京五輪を控え、競技への比重が大きくなるなかで、19年の始動となった3月の大垣ウィナーズカップを①②③着で優勝。続くゴールデンウィークの松戸ダービーを4連勝の完全V。脇本一強時代を印象づけた。6月の岸和田、高松宮記念杯では③④⑤着。ファイナルに進出し、連係した中川誠一郎が優勝を遂げ力を示したものの、G1連覇を期待したファンにとっても、脇本雄太自身にとっても納得のいくものではなかった。

「ここまでの3日間が悪くて、自分でも何かを変えようと思った。悪いなかでもここまで戦えることを証明できた。ここから調整して、次のオールスターに向けて頑張りたい」

競技大会でのロシア遠征による腰痛の影響も少なからずあった。それだけに、初のファン投票1位に輝いたオールスターでの巻き返しは必至だろう。

ファン投票1位、ここで魅せる 脇本雄太 福井県 94期



全日本選抜こそ落車に見舞われたが、ダービーで準V。高松宮記念杯でも決勝進出と、赤パンツで戦う今年もマイペースで結果を残している。サマーナイトは準決で敗退も、「オールスターがあるのもう一回、気合を入れ直してきた」と、挑んだ直前の弥彦記念では3連勝で決勝にコマを進めた。

「ダービーの準決から自力のレースで1着がなかったし、記念を3連勝で勝ち上がったのは初めて。2日目から自転車を変えて、徐々にじっくりきました。今開催でつかめたものがあるし、体もだんだん良くなってきていると思います」

さらに今節は、7月大垣で記念初優勝を飾った同県同級生の宮本隼輔がG1に初参戦。「宮本」隼輔と一緒に走りたいうですね。準決勝くらいで一緒のレースになってくれれば（笑）。悲願のタイトル奪取へ期待は膨らむばかりだ。

上昇気流に乗って 清水裕友 山口県 105期



今年前半戦は落車も多く不本意な成績に終わってしまった。それでもファン投票の結果は自身も驚きの4位。「今年は成績を残さないのにはありがたい」と1万を超える票を投じてくれたファンに感謝の言葉を口にしていた。

2月の全日本選抜の落車、失格で6月はあっせん停止。復帰後は小松島記念、サマーナイトと振るわなかったが「結果は悪いけど、つかんだものはある。小松島では見つけきれなかったものを、サマーナイトでは見つけられた。感触はいいので、そこをトレーニングしてオールスターへ」の言葉どおり、大垣記念ではきつちりと決勝戦にコマを進めた。

「練習だけでは意味がない。競走で強くなるのが浅井のスタイルであり、強みだ。復帰後の3戦で感じたものをどうオールスターにつなげていくのか、その走りに注目だ。」

復帰後得たものを形に 浅井康太 三重県 90期



1月松阪、2月奈良と記念を2度の制覇。幸先のいいスタートを切ると、その後も高いレベルで安定した戦績を残してきた。そして7月別府のサマーナイトフェスティバルでは、渡邊雄太マークから、まくりを寸前で交わしてV。14年全日本選抜以来のビッグ優勝を飾った。

「今年はチャレンジ精神でいうのを目標に掲げてやっている。だけど40歳になってビッグを獲れるとは思ってなかった。自分がいろいろやってきたなかで、ひとつホッとしたところもある。競輪界を代表する若い選手、渡邊雄太君を差したっていうのは、自分がやってきたことに自信をもっているのになって思う」

3年ぶりのS級S班に返り咲いた今年、守りに入ることなく攻めのチャレンジ精神を貫き結果を出した。日々、変わりゆく輪界の潮流を、村上博幸は鋭敏に感じ取っている。

久々のビッグ制覇も変わらぬ姿勢で 村上博幸 京都府 86期



初出場で初優出と衝撃のG1デビューを飾った昨大会から1年、今年ファン投票9位、「ドリームレース」からシリーズをスタートさせる。「去年のインパクトがあったのかも。あとはここですね。たぶんそこが大きい」。もはや代名詞ともなったアフロヘアを指さして山崎は笑う。

年末の落車で序盤は調子を落としていたが、6月久留米記念では新車もかみ合いシリーズ2勝。サマーナイトフェスティバルでも3日間バックを取って2連対した。

「今年は（勝ち）星が稼げない。それでファン投票9位はうれしくもあり頑張りたくない。今はだいたい良くなってきたし、また自分のレースで戦える。投票してくれたファンの期待を裏切らないように、精いっぱい頑張ります」

昨年ファイナルの思い出の舞台で再度、山崎が大暴れる。

アフロ効果で9位選出 山崎賢人 長崎県 111期



今年G1前の開催で立て続けに落車している吉田だが、全日本選抜で優出するなどタフなところを見せていた。高松宮記念杯でも①②③着とまずまずの成績。今回も大丈夫かと思われたが、「さすがに年間、6回転ぶとね」。大事な地元ビッグを前にしてスランプに陥ってしまった。

「この1カ月、まったく体がスッキリしない。本番までに仕事が空いたし、やりたいことがあったけど、今は無理してやるべきじゃないと。計画は大幅に崩れている」

まずは落車のダメージで崩れてしまったバランスを地道に戻す作業から。「体調さえ戻れば、やれる自信はある」と吉田は断言する。「焦る時期だし、葛藤はある。でも時間があるので、そこをプラスにとらえて。しっかり走れる体に戻すしかない。時間が解決してくれることを願うばかりだ。」

本番を前に思わぬ誤算 吉田敏洋 愛知県 85期



今年ウィナーズカップでビッグ初優出を果たし、ダービーではG1ファイナルの舞台を経験。さらに、サマーナイトで準Vと一気に輪界の階段を駆け上がった。

「最近は無理やり仕掛けるんじゃない、流れにそって走れていると思います。先行してもいいし、（好位）はまればラッキーだし。気持ちに余裕ができました」

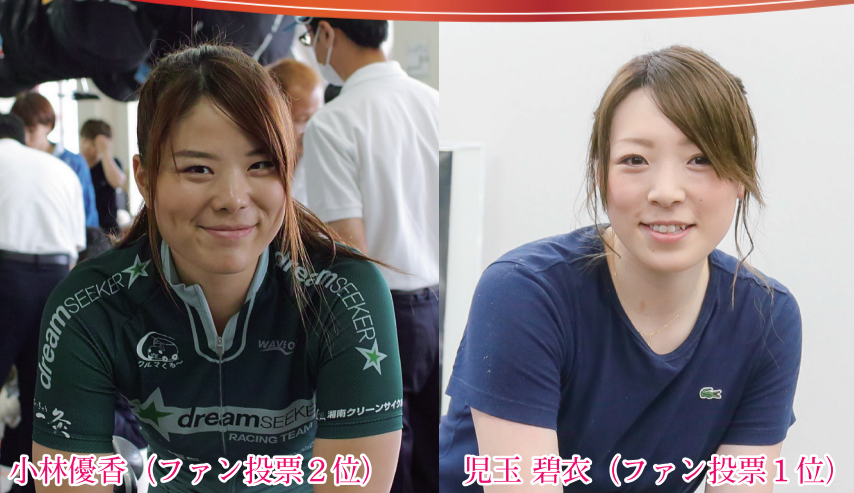
現在の賞金ランキングはトップ10入り。年末に向けての勝負はここからが本番だが、直前の西武園記念で落車のアクシデントがあった。

「西武園の落車で（指は）痛いけど、体は大丈夫です。賞金でも良いところにいるんで、なんとか決勝を目指して頑張りたい」

初のグランプリ出場へもう一度気持ちを入れ直し、後半戦のG1でも結果を残したい。

この勢いを止めることなく 渡邊雄太 静岡県 105期

## 8/17 SAT 9R ガールズドリームレース



小林優香 (ファン投票2位) 児玉碧衣 (ファン投票1位)

### トップは譲らない小林優香

昨年の「ドリームレース」を制して名実ともにガールズの頂点へと駆け上った児玉碧衣。今年ここまで45戦40勝、2着4回、3着1回。レース運びもより積極性を増して、レベルの違うダッシュで早めに他の自力型を潰して勝負するスタイルはファン投票1位に相応しいもの。しかし、今回は3月のコレクションに続き大きな壁が児玉の前に立ちはだかる。ファン投票2位の小林優香だ。念願だった東京オリンピック出場を自らの脚ではば確実なものとした小林は今年8戦8勝。児玉にも前記のコレクションでまくり勝ちしている。ここを走ったらすぐに競技のシーズンに入るため、今回が今年最後のレースとなる可能性が高い。児玉が先に仕掛け、それをまくりいく競走が予想されるが、世界トップクラスの豪脚で児玉をもねじ伏せ、投票してくれたファンに恩返しする。

図抜けた両者に迫れるなら、ガールズケイリンフェスティバル覇者の石井貴子か、復調を条件に石井寛子か。レース巧者で鳴らす2人。切れ味を生かした組み立てで波乱を呼びたい。太田りゆは競技の脚を発揮できれば。